令和２年８月４日

（公財）新潟県都市緑花センター　久原 泰雅

下潟ハスの再生について

平成 29 年より佐潟下潟のハスが急激に減少し、現在は水上では確認できない状況が続いている。しかし、平成 30 年度に開催された「佐潟の将来をみんなで考えるワークショップ」においてハスの再生を望む声が多数聞かれたほか、昨年改正された「第４期 佐潟周辺自然環境保全計画」においても、2050 年の佐潟の将来像としてハスが観賞できることが提案されている。

ハスを再生するにあたり衰退の原因を調査したところ、現在のところ原因が特定できない他、ハスの特性を考えると再生に時間を要することが解ってきた。今回は下潟のハスの再生にむけ、栽培実験を行った結果と原因特定のための調査結果を報告する。

１．ハスの減少要因

下潟においてハスが減少した要因は現在のところ不明だが、考えられる事を列記する。

(1) 水質の変化：水に溶解している物質の濃度、水温、pH、電気伝導度などの変化

(2) アオコの発生：アオコの発生による水中及び水底に届く日射量の減少

(3) 食害：動物による食害

(4) 水位の変化：稲作などに伴う季節ごとの水位調整の減少

２．ハスの衰退と生活史

ハスは多年草であり、越冬のための器官（レンコン）を作るが、毎年更新され、一度形成されない年があると個体自体が死滅するため、衰退後４年目を迎える下潟にはレンコンは存在しないと考えられる。そのため、自然に再生する場合には種子からの再生しか期待できない。

４．ハスの再生に向けて

(1) 種子からの栽培：採取の容易な種子から栽培し、再生に用いる。今年から栽培を開始し、現在のところ順調に生育している。今年度栽培が確立できれば、近隣施設などに協力を依頼し、栽培個体を増やし、移植を行う。

(2) 減少要因の特定と改善：栽培個体を用いて様々な実験をすることで、減少要因を特定し、改善策を検討する。